

試験科目(論文)

受験番号	番
フリガナ	
氏名	

I 次のA・Bから日本史専攻希望者はA(1~4)を、東洋史・西洋史専攻希望者はB(1~4)を、それぞれ選択して、空欄①~⑳に適切な語句を入れよ。

- A. 1. 律令の制度が実態とあわなくなっていくなかで、(①) 天皇は班田収受を励行させるため、班田の期間を12年1班に改めた。また、公出挙の利率を軽減し、(②) の期間を半減して公民たちの維持を目指したが、効果は薄かった。国家財政の維持が困難になると、律令政府は国司や郡司たちの怠慢や不正を取り締まるとともに、823年には(③) に公営田を、879年には畿内に官田を設置し、有力農民を利用した直営方式を採用して財源の確保につとめた。しかし、中央の各官庁はそれぞれの財源となる(④) をもち、国家財政への依存を弱めた。天皇も(⑤) と呼ぶ田を保有して、皇族にも天皇から賜田が与えられた。
2. 鎌倉時代になると、中国の文化からの影響が強まるとともに、武士や庶民に支持された新しい文化が生まれ、しだいに成長していった。たとえば建築の分野では、新しい様式として、大陸的な雄大さ、豪放な力強さを特色とする(⑥) 様が生み出された。源平の争乱によって焼失した東大寺の再建にあたって、その資金集めを担った勸進上人である(⑦) は、この建築様式を採用した。代表的な遺構として、東大寺(⑧) が挙げられる。続いて、禅宗の伝来にともなって、細かな部材を組み合わせ整然とした美しさを表わすのを特色とする禅宗(唐)様が伝えられた。その代表的な遺構として、(⑨) 舍利殿が挙げられる。彫刻の分野では、奈良を拠点に活動した(⑩) ・湛慶父子や快慶らが、奈良時代からの伝統を受け継ぎつつ、力強い写実性や、豊かな人間味の現れを特色とする作風を生み出した。彼ら奈良仏師の代表的な作例として、東大寺(⑧) の金剛力士像が挙げられる。
3. 享保10年(1725)、甲府与力の家に生まれた(⑪) は、京都に遊学した後、9代將軍徳川(⑫) の側近である大岡忠光に仕えた。大岡の死後は、(⑬) の創始した古文辞学の立場から江戸で兵学や医学を講じていたが、弟子の多くいた上州小幡藩の内紛に巻き込まれ、謀反の疑いで幕府に捕縛された。(⑪) は、すでに宝暦9年(1759)に書き上げた主著『(⑭)』において尊王斥霸思想から幕府の政治を厳しく批判していた。謀反の証拠はなかったが、幕府をばかるとの議論をしたとの理由で死罪となった。これを(⑮) 事件という。
4. 近代日本において、社会的に虐げられていた女性の解放をめざす運動は、1911年に平塚らいてう(明)を中心に結成された団体(⑯) によって始まったとされる。平塚はその後、1920年に市川房枝らとともに(⑰) を設立し、女性の政治運動参加を禁じた治安警察法の改正などを訴えた。1922年に同法が改正され、女性も政治演説会に参加できるようになったが、市川はさらに1924年に(⑱) を結成し、女性の選挙権獲得をめざした。このほか数的にはわずかであったが、女性社会主義者の山川菊栄・伊藤野枝らが結成した団体(⑲) の活動も注目される。実際に女性の参政権が認められたのは、(⑳) 内閣のときである。
- B. 1. 19世紀末、河南省安陽市の小屯村で出土した亀甲や獣骨に刻まれた文字は甲骨文字といわれ、小屯村を中心とする遺跡群は(①) と総称される。甲骨文字には、殷王の名のほか、(②) ・狩猟・農業・戦争などに関する占いの内容などが見られることから(③) とも称されるが、甲骨文字の研究解読から殷王朝の存在が証明された。殷は周囲を樹木や土壁で囲まれた集落である(④) を中心とする(④) 制国家であり、神意にもとづく(⑤) 政治が行われ、(②) の場では高度な金属器である青銅器が用いられた。殷は紂王のとき、周の武王によって滅ぼされた。
2. 河南省出身の袁世凱は、日清戦争後、西太后に与し光緒帝を裏切って(⑥) を弾圧し、義和団を鎮圧したのち、洋務運動の中心人物で下関条約の清国全権代表をつとめた(⑦) の信任を得て、北洋新軍の養成にあたった。その後、辛亥革命の発生で清朝から(⑧) に任命されると、革命派と取引して清朝皇帝の退位を条件に孫文にかわって(⑨) の臨時大統領に就任した。1913年には李烈鈞らの第二革命を機にクーデターを断行し国民党を解散させて初代大統領となり、独裁を強め(⑩) の復活を策した。1915年末には(⑩) 宣言を行ったがこれには反対が強く、第三革命を招いて1916年3月には(⑩) の取消しを宣言し、その後まもなく死去した。
3. 古代ローマが(⑪) から帝政に移行したのは、一般に紀元前27年といわれている。これは、カエサルの子(⑫) が、元老院から(⑬) の称号を与えられた年である。彼は(⑪) の形式を尊重しながらも、実際は強大な政治的軍事的権力を握った。以後ローマ帝国は、約200年間、(⑭) と呼ばれる繁栄と平和の時代を迎える。とりわけ帝国が最大の領土に達したのは、(⑮) 帝のときであった。
4. アメリカの(⑯) 植民地が独立を宣言したのは、1776年7月4日のことである。アメリカの世論を独立に結集する上で大きな役割を果たしたのが、この年の始めに出版された(⑰) の「コモン＝センス」であったといわれる。独立戦争の結果、(⑱) 年の(⑲) 条約においてイギリスはようやく独立を承認するのであるが、広大なアメリカに強力な中央政府が樹立されるには、さらに数年が必要であった。連邦主義を採用した合衆国憲法草案のもとでアメリカ連邦政府が発足するのは、(⑳) 年のことであった。

採 点 欄

II 次のうち、日本史専攻希望者は1~4の中から、東洋史・西洋史専攻希望者は5~8の中から、それぞれ一問を選択し、論述せよ。

- | | | | |
|-------------|-------------|---------------|-----------------|
| 1. 倭の五王について | 2. 寧波の乱について | 3. 正徳の治について | 4. ワシントン体制について |
| 5. 土断法について | 6. 四庫全書について | 7. レコンキスタについて | 8. パリ・コミューンについて |

III 専攻希望分野を、下記の中から選んで丸をつけよ。

日本考古学	日本古代史	日本中世史	日本近世史	日本近現代史
東洋史 (物質資料)	東洋史 (文献史料)	西洋前近代史	西洋近代史	西洋現代史
